



Kawana Hospital

質の高い在宅療養支援を目指して

Vol.2

NEWS LETTER

かわな病院 在宅ケアセンター通信



四季を楽しみながら住み慣れた場所で 穏やかに暮らす【山崎川 満開の桜】

桜山の街の東には、桜の名所として知られる山崎川が流れ、石川橋から新瑞橋までの両岸を約600本のソメイヨシノが2.5kmにわたって美しく彩ります。「日本さくら名所100選」にも選ばれた桜の名所として多く
の見物客が思い思いに、暖かい春の訪れを楽しみます。

かわな病院在宅ケアセンターでは、住み慣れた場所で四季の移り変わりを楽しみ、穏やかに暮らし続けるためのサポートがございます。お気軽にご相談ください。

第47回 フローレンス・ナイチンゲール記章受賞者、 秋山正子さんの講演会を行いました

2020年1月22日、名古屋市栄にて「多職種で支えるエンド・オブ・ライフケア」と題し、マギーズ東京などのがん患者サポート活動で知られる秋山正子さんを招聘し講演会を行いました。

当日は250名以上の方々にお越しいただき、大盛況のうちに終了しました。時折笑いも含めた、秋山さんの大変やわらかいお人柄が伝わる数々の事例を踏まえた内容に、参加者からはメモを取る姿も。暮らしの中で療養する人、家族を支えるケアについて私たちはどこまで寄り添い、何ができるのか。1時間半と短い時間ではありましたが大変考えさせられる内容でした。平日の夕方開催にも関わらず、ご参加くださった皆様誠にありがとうございました。



センター長メッセージ Message!

長年高齢者医療・緩和ケアに携わってきた中で、「在宅ケア」の必要性・重要性を痛感しています。地域の人たちの命と暮らしに寄り添い、在宅療養を支えることが自分の使命だと考えます。在宅ケアで最も大切なのは患者さんやご家族との対話。受診前には、原則としてご家族と面談し、可能な限り医師のほかに看護師やソーシャルワーカーも同席します。家族環境や療養環境などその思いを聞き取り、信頼関係を築く。変化する症状によっては気持ちが揺れ動くこともあるでしょう。それでも患者さん・ご家族の最善の選択を私たちはお手伝いさせていただきます。かわなのスタッフに会うとほっとする、そんな安心の地域医療の提供に努めます。

かわな病院在宅ケアセンター センター長 医師 亀井 克典

在宅ケアセンターのご紹介

部門紹介〈訪問看護ステーション〉

高齢化社会となり病気や障がいであっても長期間入院ができない方、病院ではなく住み慣れた家で自分らしく過ごしたい方が増えてきています。私たち訪問看護師は病気や障がいと付き合いながら在宅療養のお手伝いをする役割を担っています。

需要はあるのに中々訪問看護師が増えない現状の中、かわな訪問看護ステーションの看護スタッフは所長を含めて常勤10名と規模の大きい訪問看護ステーションです。人数が多いからこそできる、様々な視点・個々の得意分野を活かす情報共有で、利用者様の個別性に配慮した看護を心がけています。利用者様・ご家族様はもちろん、私たち看護師も満足できる看護を目指し日々頑張っています。

- 健康管理・療養支援
- 医師の指示による医療処置
- 専門性をもった看護
- ターミナルケア



〈在宅療養の現場から〉穏やかさを取り戻した母、家族みなでお花見も

今回は誤嚥性肺炎で療養型病院に入院、その後在宅療養に変更しご自宅で最期を迎えられた 101 歳の K さん（女性）をご紹介します。

K さんの娘さんは入院中にせん妄が出現している様子を見て、「いつもの穏やかな母で最期を迎えさせてあげたい」という気持ちが強くなり、在宅療養をスタートされました。ご自宅に戻ると徐々にせん妄も改善が見られました。

高熱が出たときは施設入所も検討されましたが、連日看護師が訪問に伺うことで不安が軽減し、安心して在宅で見ていく選択ができたそうです。

K さんは高齢ですが意思がはっきりしており、食事摂取や離床への意欲もありました。誤嚥性肺炎による点滴・絶食が続く中で「食事がしたい」という希望があり、訪問看護師内でカンファレンス後に主治医へ相談、言語聴覚士（ST）と連携してサポートに努めました。

また、「座りたい」思いに応え、訪問看護師とリハビリスタッフ

総出でベッド上リハビリから始めていきました。車椅子に座ってしばらく過ごすことが可能になったある時、めがね型拡大鏡をかけて真剣に『三国志』を読んでいた姿には驚きました。「座れてうれしい!」と満面の笑みを浮かべた K さんの笑顔は輝いていました。

お花が大好きな K さん。桜の時期になり「母に桜を見せてあげたい」と、ご家族より話が出ました。少しずつ身体の衰弱がみられた時期でしたが、主治医・訪問診療部看護師と相談し、ケアマネジャーとの連携を図り日程を調整しました。介護タクシーを手配し、緊急時の対策をご家族へ指導することで、安心してお花見にも行けたそうです。

その後しばらくして老衰でお亡くなりになりました。亡くなった直後、ご家族は涙を流しながら看護師と共に身体を拭き、エンゼルケアを行いました。「頑張ったね」「母らしい最期だったね」「家で過ごせて良かったね」「桜が見に行けたね」と声をかけながら、ご家族みんなが笑顔になり、穏やかなときを過ごされました。

一日でも長く、その人らしい暮らしをご自宅で続けられるよう、全力でサポートいたします。

〒466-0807 名古屋市昭和区山花町62番地 1

在宅ケアセンターNEWS LETTER

発行:医療法人生寿会 かわな病院在宅ケアセンター 総務企画

☎052-759-5535 FAX052-759-5537

✉ info@kawanahp.jp

🏠 <https://kawanahp.jp/center/>

📘 <https://www.facebook.com/KawanaHP.community.care/>

新型コロナウイルス感染対策について
かわな病院在宅ケアセンターでは、手指消毒・手洗い、職場等での頻回の換気、職員の体調管理を徹底して行っています。在宅診療・ケアの現場においてもマスクの着用、診療・ケア行為ごとの適宜手指消毒等を心がけております。お気づきの点やご要望があれば、遠慮なくお伝えください。